

ともに 歩もう 石巻だより

子どもたち

あの日、帰らぬ旅に出た
子どもたちの記憶を刻みます

鈴木堅登くん [12歳] 巴那さん [9歳]

たくさんの思い出がある

携帯電話から優しげな
旋律が流れ出す。

「Close to You セナの

た。やんちやぶりに腹をたてながらも、泣
いたり笑つたりする妹の姿をちょっとユー
モラスに、愛おしそうに書いている。「いつ

ピアノ」。小さな画面の中で、鈴木

巴那さんがピアノを奏でている。だ

いぶ前のテレビドラマの挿入曲は、
母、実穂さんのお気に入り。発表

会でお母さんのために弾く。そのつ
もりで練習を続けていた。

巴那さんは二つ違ひの兄、堅登
くんがいる。今から7年前、小学3

年生の時に妹のことを書いた作文
が宮城県内で推薦作品に選ばれ、
文集に掲載された。父、義明さん

はそのコピーを大切にしている。
題は「お兄ちゃんは、大へんだ」。

放課後、一輪車に夢中になり、帰
りのバスに乗り遅れて泣き出す巴
那さん。その面倒を見ていたら、自

分もそろばん教室に遅刻してしまっ
た。その日のことを、実穂さん
は鮮明に覚えている。予定日
を過ぎてもなかなか生まれず、
て絵を描き始める巴那さんがおばあさんへ



伝えたい。過ぎ去った日々のあの笑顔を。
暗闇に立ちすくんだ時、
この記録が足元を照らす光となるように。
そしてまた明日の朝を迎えるように。
朝日新聞社員がつづる。

明日は陣痛促進剤という日の夜、話をして
いた宿直の看護師さんが胎児の心音を測つ
てみましようと言ふ。調べてみると今にも
消えそうに弱まっている。すぐに帝王切開。
駆けつけた医師は顔面蒼白で手が震えてい
る。「もうダメだ」と思ったが、とりあげら
れると途端に大声で泣き始めた。

ずっと後になつて看護師さんと再会。あ
の時に測らなかつたら、助かつたかどうか。
「命の恩人です」といふと、「堅登くんだよ
ね」と覚えていてくれた。

巴那さんは逆に予定日の前月の3月に生
まれた。名前は2歳の堅登くんがつけた。
幼稚用の学習教材「こどもちゃれんじ」の
キャラクター「しまじろう」の妹の名から
とつた。「はなちゃんみたいにかわいいとい
いな」。妹のほっぺを触つては「かわいいよ
ね」と言う。

義明さんは北上川河口の近
く、石巻市長面の出身。実穂
さんは東松島市に住んでいた。
17年前に結婚。その年の12月、
堅登くんが生まれた。

その日のことを、実穂さん
は鮮明に覚えている。予定日
を過ぎてもなかなか生まれず、
て絵を描き始める巴那さんがおばあさんへ

明日の風

12月、女川中学校卒業生の2人が訪れた。石巻好文館高1年の阿部由季さん(16)と石巻高1年の木村圭さん(15)だ。卒業生らが取り組む津波対策に、教室は絵画展の収益10万円の寄付を決め、贈呈式があつた▼初対面の生徒。平わかなさん(16)が阿部さんの手をぎゅっと握つた。喜びがこもる握力。阿部さんと木村さんの緊張がほづけた
▼式で2人は対策を説明。阿部さんが紙芝居のように写真を掲げ、木村さんが原稿を読む。「波が引いた後、町が黒かつたのを覚えていまます」。初めて語る記憶。「千年に1度の津波を経験し、千年後の命を守るために考えた三つの対策を紹介します。一つ目は『糸を深める』。ある先輩の話がきっかけで『この話も初めてだ』先輩はおばあちゃんを背負つて駆け上りました」。優しい先輩だった。声が詰まつ→

に怒られ、それを堅登くんが冷やかすと、布団に入るまでけんか……。

それでも両親には、堅登くんには巴那さんが頼りのよう見えた。

英検の試験に向かうとき、緊張している

堅登くんに巴那さんが「お兄ちゃん、来な」と声をかけていた。近所でおばあさんが倒れたのを見つけ、一人ですぐに知らせて表彰されたこともある。堅登くんはス

ポーツ少年団で柔道を習っていたが、練習の時はよく泣いていた。団の子どもたちは誰もがおとなしく、試合ではなかなか勝っていない。女の子の団員から「巴那ちゃんも入ってください」と頼み込まれていた。

入りたい気持ちはあつたかも知れない。が、ほかの習い事も忙しかった。堅登くんは柔道にそろばん。巴那さんもそろばん。そして毎週土曜には東松島の教室で、堅登くんが英語、巴那さんがピアノと英語を習っていた。実穂さんの実家の近くだ。二人のレッスンを担当した久我真奈美さんは、巴那さんが答えられないとき登くんが小声で教えるよとすると姿が忘れられない。

兄と妹の関係を表す逸話がある。小学校に入る前の巴那さんが初売りのくじ引きで旅行券を当て、祖父母と実穂さんが一人を連れてディズニーランドに行つたときのこと。園内を見て回り、実穂さんと堅登くんがランチボックスを買って戻ってきたら、祖父母といははずの巴那さんがいない。頭につけていたミッキーマウスの耳を目で追うが、子どもはみんなつけてるから目印にならない。「おなか空いたあ」。ランチ

を抱えてついて回る堅登くんを叱りながら、実穂さんは園内を何時間も探し回った。こんなに探しても見つからないなんて。誰かに連れて行かれたのか。もう会えないので

は。日暮れ前、探し疲れて迷子センターに行くと、そこに巴那さんが……。他の迷子たちはみな泣いているのに、ビデオを見ながら一人大はしゃぎだった。

お兄ちゃんは、大へんだ——。作文の題の言葉を、堅登くんが最初にかみしめたのはこの時かも知れない。

親も気づかぬ間に子どもは成長する。

「レントゲン技師になりたい」と堅登くんが言い出したのは5年生のころ。通つていた病院で機械を操作する若い技師の姿にあこがれたのがきっかけだった。「人の命を預かるんだからね」。しっかりと勉強しなければ。

両親は仙台市の私立中学校の受験を勧めた。「やつてみつかな」そろばん教室では一番だったが、受験勉強を始めたのは6年の時。試験の日、どうだつた? と問う母に、「すげかつた。校舎は自動ドアだし、食堂あつしこ」といやそうに離したらダメだ。ギュッと抱きしめた。いつもの香りがした。居る場所を聞けばよかったです。と目が覚めて悔やんだ。

二人を教えていた真奈美先生は、両親を招いて追悼コンサートを開き、発表会で着るはずだった巴那さんのドレスを飾つて「Close to You」を演奏した。今は教室の子どもたちと仮設住宅を回り、合唱会を続いている。会場には堅登くんと巴那さんの顔が描かれた模造紙を飾る。絵の好きな実穂さんの作だ。「一人もいつしょに歌つてくれています」と語りかける。

合格した中学校の先生は「卒業」の昨春、訪ねてくれた。入学はできなかつたが、「堅登くんのことは忘れません」と。

ひとつの命に、たくさんの思い出がある。たくさん的人が思い出を共有している限り、命はそれぞれの心の中で生き続ける。

義明さんと実穂さんは、時折、仮設住宅に一人が訪ねて来るよう思つてゐる。災害の国に住み続ける限り、私たちはこ

の学校名を忘れるべきではない、と思う。大地震から50分近く、校庭にとめおかれた子どもたちは、移動を始めた直後に津波に襲われた。児童と教職員合わせて84人が犠牲になつた。

堅登くんと、自宅にいた義明さんの母は見つかた。巴那さんは今も帰らない。捜索は何度も行われ、両親は2年にわたり現地へ通い続けた。

どこにいるの——。幾たび問い合わせたとか。震災の翌年、実穂さんは初めて巴那さんの夢を見た。白いシャツにチエック柄のスカートで心もち大人っぽく見えた。

離したらダメだ。ギュッと抱きしめた。いつもの香りがした。居る場所を聞けばよかったです。と目が覚めて悔やんだ。

二人を教えていた真奈美先生は、両親を招いて追悼コンサートを開き、発表会で着るはずだった巴那さんのドレスを飾つて「Close to You」を演奏した。今は教室の子どもたちと仮設住宅を回り、合唱会を続いている。会場には堅登くんと巴那さんの顔が描かれた模造紙を飾る。絵の好きな実穂さんの作だ。「一人もいつしょに歌つてくれています」と語りかける。

合格した中学校の先生は「卒業」の昨春、訪ねてくれた。入学はできなかつたが、「堅登くんのことは忘れません」と。た。言葉の不自由な生徒が「おお」と励ますように呼びかける。木村さんの潤んだ目に笑みが戻り続けた。

「緊急時に助け合うため普段から絆を深めることが大事だと考えました」▼その原稿を書く時、当時の話をずっと避けていたことに気づき、考えた。伝えること

は使命。自分たちへの報いにあり、先輩たちへの恩返しでくれた人々への恩返しであり、先輩たちへの報いになる▼そして贈呈。2人はすつと床にひざまずいた。齋藤優華さん(17)が車椅子で進み出て「このお金で石碑を建てて下さい」。もう一つの対策、記録を残すための石碑への寄付だ。女川町内に21基建てる計画で、今は6基立つ▼齋藤さんは「同じ高校生が、震災の悲しみを、千年後の命を救うという希望に変えていることに感銘を受けました」と振り返る。「石碑の計画のお役に立てて、とても感謝しています」▼式後、2人もキヤンバスに向かつた。生徒に教わり色を重ねる。水をかける。岩塩をふる。歓声が上がる。光を描いた絵と共に新たな絆が生まれた。

震災のあの日、巴那さんは4年生、堅登くんは卒業式をひかえた6年生。

一人は石巻市立大川小学校に通つていた。震災の国に住み続ける限り、私たちはこ

雄勝巡礼

石巻市雄勝町の港そばの
雄勝病院の話から始めよう。

[第5回]

「居眠りすんなよ」
「寝てないよー」

8歳下の主任栄養士、佐々木弘江さんが笑顔で反論した。

外は氷点下でも春の喜び桃の節句

本館3階の308号室に阿部正さんは入院していた。

ベッドから身を起こし、ふりかえれば、南向きの窓に波のお金やかな雄勝湾が広がる。水面には黒や赤、黄色の浮き樽、浮き球が無数に並び、点描画のようだ。海の先に見える山は、なだらかな稜線を描く。

太陽が中空にやつてきた。

引き戸があく。

娘の様子さんだ。洗濯を終えたパジャマやタオルを抱えていた。介護休業を取り、毎日、昼と夕方の食事時に見舞いに通っている。

大須の家から病院までは車で25分ほどの道のりだ。父ゆづりのぼつたりとした唇が開く。

「イチゴ食べた?」

返す言葉はそれだけ。看護師とはよくおしゃべりする父だが、娘には気を遣うこともない。83歳。末期がんだった。

本館3階の308号室に阿部正さんは入院していた。

娘は毎夕、枕元の引き出しに小さな器を置いて帰る。父の好物の小ぶりのトマトを1個、あるいはイチゴを3個入れておく。翌朝のデザートだ。イチゴは、3日に1度、車で約1時間先の直売所まで買いに行つた。ベッドに腰掛けた父の前に、昼食が届いた。

ちらしずしだ。

外は氷点下の寒さでも、時は3月。その日は桃の節句だった。散らしてあるのはサヤエンドウと、エビと、桜でんぶ、それから、作りたての錦糸たまご。

酢飯にまぜてあるのは、甘く煮たニンジンと干しシイタケ。

菱餅のよう、桜色、抹茶色、卵色で三層になつたショートケーキも

3階の廊下の端に配膳車のエレベーターがある。

そこから1階の厨房の明るい声が響いてきた。

ひと仕事を終えた調理員たち

の声だ。テレビ番組の話で笑い、漫才をまねて笑っていた

厨房にも、その隣の栄養士の

事務室にも、日が差し込む。

事務室の窓の外にすだれが掛けてあるが、冬の間は巻き上げ、陽光を室内に取り込む。

すだれは、空調のない事務室の夏の日よけ用にボイラーテchnical

の千葉俊悦さんが取り付けた。

「すぐれたがねえと、通りがかりの人には『寝ていたな』と言われて、困つペ」といつもの軽口をたたきながら。

昼下がり。

訪問看護の時刻が近づく。看護師が乗る車の運転手は、

ボイラーテchnicalの千葉さんだ。

「雄勝町史」にこんな記述がある。——三陸地方は、津波災害を増加するV型・U型のリ

アス式海岸が多く、しかもその口を震源地に向いているので、

津波では世界一と言われる。本町もその例にもれず、いつも被災地の宿命を負っている。

その後、病院は改築になった。

町では第1波よりも第5波が最も高く、中心街の雄勝地区で堤も完成。病院の前にも出来た。「昭和三陸津波」に対応した高さだった。

82年度には雄勝港周囲の防潮

堤も完成。病院の前にも出来た。

4・3メートルを記録した。

当時、病院は床上1メートルほど浸水した。

海の埋め立て地、かつて床上浸水

病院の敷地は、海の埋め立て地だ。1954年、前身の診療所が建てられた。

一帯は「硯浜」と呼ばれてい

た。町内の約2億年前の地層か

ら採れる石は古来、「硯」に使わ

れ、明治からは高級屋根材の

「スレート」にも使われた。

大正のころは「石盤」も量産

された。紙に代わるまで、学校

で重宝され、東南アジアや中国

にも輸出されていた。

石を扱う仕事で粉じんを吸い込むと、肺が弱まり、珪肺にな

りやすく、結核にもかかりやすくなる。

55年、診療所は病院の認可を

得て、58年には結核患者のための入院ベッドも加わった。

60年、「チリ地震津波」発生。

それは日本時間の5月23日

地震による津波だった。約24時間かけて約1万7000キロ離れた日本にも達した。

早朝、南米のチリで発生した大震

は日本にも達した。

町では第1波よりも第5波が最も高く、中心街の雄勝地区で

堤も完成。病院の前にも出来た。

4・3メートルを記録した。

当時、病院は床上1メートルほど浸水した。

この時、病院一帯が隣接する明神地区では高さ3・6メートルを記録。その高さは「昭和三陸津波」を上回った。

33年3月3日未明の「昭和三陸津波」は、激震の約30分後に到達した第1波が、壊滅的な被害をもたらした。ただし、明神地区では高さ1・8メートルにとどまつた。波は地形により姿を変え、雄勝地区では4・5メートルを記録。半島の荒地区は10・5メートルも記録した。

「雄勝町史」にこんな記述がある。——三陸地方は、津波災害を増加するV型・U型のリ

アス式海岸が多く、しかもその口を震源地に向いているので、

津波では世界一と言われる。本町もその例にもれず、いつも被災地の宿命を負っている。

その後、病院は改築になった。

町では第1波よりも第5波が最も高く、中心街の雄勝地区で

堤も完成。病院の前にも出来た。

4・3メートルを記録した。

当時、病院は床上1メートルほど浸水した。

